

# 平成 27 年度事業計画

## 総 括

平成 27 年度の重点項目を以下の通りとする。

1. ダンススポーツの大々の普及を目指す活動(研究・開発テーマ)
  - (1) オリンピック競技種目化を目指す活動を展開(目標 2020Tokyo~2024)
  - (2) 健康寿命の延伸、セルフメディケーション視点での健康増進プログラムの研究開発
  - (3) 風営法の改正と、改正後に参入が見込まれる優良資本と連動した新型ダンス普及事業の検討
  - (4) 早期の国体公開競技化に向けた努力
  
2. ダンス人口高齢化・減少および会員減少を防止する施策
  - (1) 学連との協調および若手学連 OBOG イベントによる若手ダンス人口の確保
  - (2) 他ジャンルダンス団体との交流、共同イベントによるダンススポーツへの導入
  - (3) 競技以前のハードルの低いダンス普及施策、イベントの検討・実施
  - (4) サークル機能の見直しと 3 種加盟団体の受け入れ促進
  - (5) 特別協賛教室との連携による未経験者へのアプローチ
  - (6) マスメディアとのタイアップによる露出増加と認知度向上
  - (7) ホームページのポータル化に向けた改善と SNS の活用
  - (8) その他有効施策の継続的検討
  
3. 財務体質の改善と組織強化

中長期の会員減少傾向に対応すべく、構造改革委員会を設置し、組織再構築を行う。

  - (1) 統廃合を含めた事業の抜本的見直しによる経費削減
  - (2) 各部門および事務局の業務合理化の推進
  - (3) 会費減少を補う新たな付加価値サービスの検討
  - (4) IT を利用した会員管理・サービスシステムの拡充と合理化検討
  
4. 競技会の活性化
  - (1) DSCJ の枠組み拡大
  - (2) 協力団体との協調による PD 競技会の活性化
  - (3) 三笠宮杯、グランプリ競技会など主要イベントの更なる魅力作りと集客増の検討
  
5. 選手強化

昨年に引き続き、海外派遣、国内・国外合宿、強化練習に注力する。将来のオリンピック競技化を見据え、中長期的視点で成果が出つつあるジュニア・ユースの支援を強化し、底辺の拡大を図る。
  
6. その他重点施策
  - (1) 軌道に乗った WDSF ダンススポーツ・テキストの翻訳・出版
  - (2) 音楽著作権に関する JASRAC との包括契約を検討・推進
  - (3) 新たな大型スポンサーの獲得
  - (4) ブロック機能による地域活性化
  - (5) 創立40周年記念事業の実施と今後のビジョンの再策定
  - (6) その他、定型的業務としての普及事業、指導員育成、資格管理業務、技術認定業務、国際業務、競技会関連業務、ジュニア育成業務、PR 推進業務、マーケティング業務、アンチ・ドーピング業務などを着実に実施し、円滑な組織運営を図る。

## 各本部・委員会

### 普及本部

普及本部(フィガー・プロジェクトを含む)では、下記に示す諸施策を推進する。

#### 1. 指導部

- (1) 公認指導員資格更新研修では従来のダンス技術を主体としたものにとどまらず、スポーツ指導者に必要な知識および指導員の心得え並びに技術研修を取り入れ、会員拡大と普及を踏まえた内容の充実を図る。
- (2) 新規指導員養成講習会とそれに伴う選考試験、並びに公認指導員研修会を全国レベルで実施し、公認指導員の充実と指導技術向上を図る。
- (3) 資格取得後3年以上経過したC級指導員に対し、B級指導員への昇級選考試験を引き続き実施する。
- (4) B級指導員からA級指導員への昇級試験を実施する。
- (5) (公財)日本体育協会の競技別指導者制度と連携した日体協公認ダンススポーツ「指導者」の養成を行う。
- (6) 全国6ブロック指導部長会議を開催し、コンGRESSなど各事業計画の連絡および各ブロックにおける要望事項などの意見拝聴と調整を行う。

具体的な事業は以下の通り。

- 1) 公認指導員研修会
- 2) 新規公認指導員選考試験とそのための講習会
- 3) B級公認指導員昇級試験とそのための講習会
- 4) A級公認指導員昇級試験
- 5) (公財)日本体育協会スポーツ指導者育成のための講習会
- 6) 全国ブロック指導部長会議

#### 2. 技術認定部

技術認定制度は、平成17年度から平成26年度までの全国展開構想10年間の最終年を迎えたことから、10年間の実績を評価検証し、今後の技術認定制度のあり方について構想するものとする。

また、引き続き非会員への受験機会の拡大や選手経験者への受験機会の提供等更なる改善に努めるとともに未経験者への導入方法について、これまでの常識にとらわれない広い視野で検討するものとする。

なお、上級受験者への指導法や合否判定ノウハウの共有も含めて以下の事項に取り組むものとする。

- (1) 公益法人としてのスタンスによる活動の促進
- (2) グレードコースの着実な展開による普及促進と受験者層の底辺拡大
- (3) ハイグレードコースの発展に向けた多岐にわたる誘導施策の展開
- (4) 技術認定会の先進事例の情報共有と水平展開

## (5) 制度の充実と拡張

### 3. フィガー・プロジェクト

フィガー・プロジェクト活動(指導部、技術認定部、競技部合同)を昨年に引き続き実施する。

- (1) JDSF オフィシャル・フィガーの内容精査
- (2) JDSF 標準アマルガメーション I (技術認定グレードコースを含む。)のレビュー
- (3) JDSF 標準アマルガメーション II (技術認定ハイグレードコース)のレビュー

### 4. ダンススポーツ医科学研究部

WDSF 教本の日本語版出版のための翻訳および教本に沿った DVD 製作にかかわる業務を重点的に実施する。今年度中に10教本の完成を目指す。

- (1) テキスト翻訳プロジェクトチームによるWDSF 教本の翻訳を行う。
- (2) WDSF 教本の日本語翻訳版教本を出版する。
- (3) WDSF 教本に対応するフィギュアDVD作成のための映像収録(ラテン)を行う。
- (4) DVD作成のためのコンテンツ編集を行う。
- (5) DVDを製作・販売する。

## 国際本部

国際本部はWDSF,ADSFによるオリンピック関連事業の一翼を担うべく、各国競技団体との協調の下、国際的に、次のダンススポーツ活動を推進する。

- (1) WDSF、ADSF 事業への協力。
- (2) WDSF 選手権、WDSF 各種競技会等への選手や役員の派遣手続。
- (3) 国内事業における海外関係への担当、協力、助言。
- (4) ダンススポーツのオリンピック種目を目指した活動を行う。

具体的には次のとおりである。

- (1) WDSF、ADSF 総会等に参加し、また、e-mail 等による各種情報伝達により国際事業への協力、企画を行うとともに、国内への案内を行う。
- (2) 海外競技会選手派遣部(選手派遣部)を中心に WDSF 競技会に関する案内と派遣手続、選手への助言を行う。選手派遣については世界スタンダード選手権、世界ラテン選手権、世界 10 ダンス選手権、世界シニアスタンダード選手権、世界シニアラテン選手権、世界ユーススタンダード選手権、世界ユースラテン選手権、世界ユース 10 ダンス選手権、世界ジュニアスタンダード選手権、世界ジュニアラテン選手権、世界ジュニア 10 ダンス選手権、アジアシングルダンス選手権、および WDSF 関連競技会、特に World Games、World DanceSport Games 等への派遣手続を行う。
- (3) WDSF World Open 他 (東京オープン)、WDSF Open 競技会等での海外関係事業、そのほか各加盟団体からの依頼による講師や選手の海外からの招聘活動を行う。

### 1. 選手派遣部

[ミッション] 日本代表選手を派遣する。

(1) 日本代表選手のエントリー

世界選手権、ワールドカップ、アジア太平洋圏内の代表競技会に、各年代の選手を派遣する。

国際派遣選手選考規程に則り選考された選手のエントリーを行う。

(2) 旅費補助の確認/承認

海外派遣選手援助規定に従った旅費が妥当である事を確認し、旅費精算の承認を行う。

(3) シニアⅡ、シニアⅢ、シニアⅣについて

シニアⅠ以外のシニア年齢層については、一定の基準を満たした選手についてのエントリーを行う。

(4) その他国際競技会

妥当と判断した際には、エントリーを行い、代表派遣手続きを行う。

(5) 帯同役員の派遣

規程に基づき帯同役員を派遣するが、選手強化部と連携してメンバーを選出する。

## 競技本部

競技本部は5つの専門部に分かれて活動し、その各部の連携をはかり、以下の事業を行う。

(1) DSCJ全日本統一級競技会の推進を図り、JBDF の参加など実情に基づく改善策を検討する。

(2) JDSF主催競技会の改善に関して検討する。

東京オープン、三笠宮杯全日本選手権、都道府県対抗全国大会、グランプリ、ブロック選手権などへの協力支援及び整備。

(3) 審判員、競技長、採点管理長、システム運用資格者、チェッカーなど競技資格者の質の向上を図り、資格者の管理を行う。

(4) 国際的レベルに達する選手及びジュニア選手の育成に努める。

(5) ジュニア層の底辺拡大と競技力向上を図る。

(6) 関連各本部、委員会への協力。

## 1. 競技部

(1) DSCJ 競技規則、昇降級規程改訂(級体系の見直しを含む)

(2) JDSF 競技関連規程の一部規程の改訂

(3) DSCJ および各ブロックと協調して、JDSF 公認競技会の開催推進、調整および支援、公認認可手続き

(4) 競技資格部の競技長講習会および採点管理長講習会の開催に協力

(5) 競技本部、競技支援システム部と合同で会議(6回)を開催し、各部と連携し競技関連の問題点を処理

(6) 派遣選考会およびグランプリの調整、支援、ダンススポーツランキングの集計、広報

(7) 会員拡大を目的とした、生涯スポーツ系の競技会(普及競技)開催促進

## 2. 審判部

- (1) JDSF公認承認競技会への審判員派遣
- (2) 新規JDSF公認審判員登録手続きの実施
- (3) 審判員研修会(公認・承認)の実施
- (4) WDSF公認審判員登録手続きと派遣手続きの実施
- (5) その他
  - \* 審判員活動に関わる記録の整備・保管を行う
  - \* 新審判基準策定、新審判方式実施などに関して必要な協力と提言を行う

## 3. 選手強化部

国のオリンピックムーブメントに連動して、JOC 選手強化本部と連携を深めながら、ダンススポーツの競技力を国際レベルに引き上げられるよう、創意工夫していきたい。

- 目標  
世界レベルの選手(ファイナリスト)を輩出する。
- 中期的施策  
ジュニア・ユースの支援を強化し、選手強化の底辺の拡大を図る。
- 短期的施策  
挑戦する意欲があり、JDSF との協調性に賛同する選手を、積極的に支援していく。  
昨年導入の『強化選手評価基準』を基に、可能な限り公平な支援を行なう。

具体的強化策

- (1) 海外競技会・海外合宿・チーム派遣
  - 1) 海外合宿
  - 2) ジャーマンオープン チーム派遣
  - 3) アジア地域 WDSF 競技会出場支援
  - 4) 世界選手権 ジュニア・ユースの派遣役員帯同
- (2) 国内競技会・国内合宿・トレーニング
  - 1) 国内合宿 : 夏 8/27-8/29 (鹿島)  
春 3/19-3/21 (鹿島)
  - 2) 強化練習会、特別強化練習会(海外優秀コーチ設置)  
毎月1回(日曜午後)
  - 3) パフォーマンストレーニング  
強化練習会のない週の火曜(ラテン)水曜(スタンダード)夜間2時間。
- (3) コーチングスタッフによる支援・サポート
- (4) 医科学支援サポート  
JISS、DMA の活用サポート
- (5) トップ選手への活動費支援(A ランク、B ランク)
- (6) 遠隔地選手の旅費支援
- (7) 国の助成金支援を最大限活用

## 4. ジュニア育成部

ジュニア層の底辺拡大と選手強化部との連携を図り、競技力向上の事業を推進するため、以下の事業を行う。

(1)ジュニア指導員の確保、資質の向上を図るための事業

- 1) 新規ジュニア指導員養成講座の開催(東京 8/22,29,9/5,12,26,10/3)
- 2) ジュニア指導員の研修会(7月、2月)
- 3) ジュニア指導員検定(10月10日予定)
- 4) ジュニア指導員要綱の改訂版(第6版)発行
- 5) ジュニア指導員講習会・研修会のための講師養成
- 6) ジュニア準指導員制度の管理

(2)ジュニア競技会開催と開催推進事業

- 1) 第10回オールジャパンジュニアダンススポーツカップ 2015in神奈川
- 2) 各都道府県でのジュニア競技会の推進活動

(3)ジュニア・ユースアスリートクラブの活動、運営

- 1) 会員登録、会員の成績管理など
- 2) 研修会、交流会など
- 3) 競技会参加旅費の支援(選手強化部と連携)
- 4) 表彰
- 5) 会員手帳、会員のしおり 発行

(4)認定ジュニアクラブ(サークル)への情報発信

(5)学校教育検討委員会との連携活動

## 5. 競技資格部

講習会及び研修会を開催し、競技資格者の資質の向上及び資格更新制度の適正な運用を図る。

資格更新制度適用の競技資格の講習会又は研修会

区 分	競技長	採点管理長	システム運用資格者
北海道ブロック	○	○	○
東北ブロック	○	○	○
関東甲信越ブロック	◎	◎	◎
中部ブロック	○	○	○
西部ブロック	○	○	○
九州ブロック	○	○	○
計	12 回	12 回	12 回

○:1回 ◎:複数回

(1)各ブロックは、資格更新のために、各競技資格者にかかるテキスト研修会を行う。

ただし、3つの競技資格のうち1つについて、希望すれば本部講師による資格取得のための講習会を開催することができる(関東甲信越:県単位で開催)。

(2)競技資格部の承認を得て、都道府県連盟が自らの予算で講習会又は研修会を開催することを奨励する。

(3)資格体系の見直しを行う。

## 情報システム本部

情報システム本部では、JDSF情報システム(データベース)をもとに、正確で迅速な情報提供ならびに加盟団体との各種申請・登録手続きのWeb処理による事務処理の迅速化、ペーパーレス化を推進する。

特に競技会関連システムでは、スマートフォンの普及によるWeb環境を活かし迅速かつ正確な競技結果ならびに昇級状況などの情報開示を進める。

また、無線LAN端末による競技会支援システムの汎用化を推進し、関連団体への普及を図り、競技会の運営効率と入力 of 正確性を図る。

### <平成27度開発予定システム>

- (1) 競技会、昇級管理の充実と情報提供強化(項目・検索追加)
  - 1) 競技会開催情報検索システム
  - 2) 成績・昇級情報提供
  - 3) マイページ開設(個人登録情報)
- (2) 学連用リアルタイム支援システム開発
- (3) DSC会員管理システム開発および個人会員管理システム開発
- (4) 全日本学連会員管理システム開発

### 1. 競技支援システム部

競技会運営を支援する情報システムの開発、運用、管理及びその改善を担当し、DSCJ/JDSF公認・承認競技会の正確、円滑な運営と改善を図る。

- (1) 競技支援システムの開発、運用、使用促進及びその改善のための立案と実施、並びに関連規程案の作成、提案
- (2) 競技会結果データの確認と主催者への教育指導、マニュアルの作成、並びに正確な昇降級認定、データの登録管理システム部への提出
- (3) リアルタイム採点システムの修正改善及びその普及
- (4) 登録管理システム部との連携

## PR推進本部

ダンススポーツの普及のため広く国民に向けてダンススポーツの知名度を高める活動を行う。

### 1. 広報部

- (1) JDSF 広報誌「Dance Dance Dance」の発行・充実、その他広報活動
- (2) ホームページプロジェクトの活動
  - 1) JDSF ホームページの改修と更新維持管理
  - 2) JDSF メール処理の維持管理
- (3) メイン競技会のマスコミ認知活動、露出管理

## 2. PR 部

ダンススポーツの普及活動促進のため、国民に向けてダンススポーツの知名度を高める活動を行う。

### (1) マスコミ等への働きかけ

テレビ・新聞等マスコミへの働きかけを行い、会員および国民へのダンススポーツへの普及促進を図る

### (2) 地域におけるダンススポーツ啓発活動

PR活動ポスター等資料作製

## マーケティング本部

### 1. マーケティング部

引き続き、従来からのオフィシャルパートナーの他、新たなスポンサーの獲得を目指す。

### 2. 事業部

下記事業を実施する。

- (1) CD制作及び販売
- (2) 指導部・技術認定部政策の教本、DVD 販売
- (3) 次のグッズを販売する。
  - 1) JDSFオリジナルグッズ
  - 2) メーカーとのタイアップグッズ
- (4) 各地でパーティー開催の補助
- (5) ダンスのできるホテル、旅館との提携
- (6) テレビ局、雑誌社との関係

広報部、事務局、各部門と連携し告知を行う。

## ダンス開発本部

下記の事業を実施する。

1. 若手学連 OBOG 練習会 & ミニコンペ開催
2. 学連 4 年生との合同イベント開催
3. 会員拡大のためのイベント開催
4. 外部企業、団体へのイベント協力
5. 他ジャンルダンス団体とのイベント共催または協力
6. 三笠宮杯、東京オープンへの協力



## PD 本部

1. WDSF-PD につながる JDSF-PD の組織的位置づけを明確にし、選手・審判登録管理、WDSF 競技会への出場申込み、成績管理、国内 PD 競技会の開催管理などの管理体制を確立する。
2. 上記組織的位置を明確にするため、国内の PD 関連団体との協議を進める。
3. JDSF 選手に対して、PD 登録の推進を図る。
4. WDSF PD 競技会の国内開催を企画立案し、PD 事業の普及を図る。

## 企画委員会

企画委員会は、JDSF の中長期的な方向を検討・企画し、通常の業務組織では対応しにくい課題を担当するが、平成 26 年度の重点実施事項は、以下の通りである。

### 1. ダンス人口の高齢化と減少に係る抜本施策の検討

JDSF の会員組織は、認定サークルを末端組織と位置づけているが、高齢化による会員減少傾向が顕著になってきており、未経験者、非競技者、若年者の受け皿としては現状のサークル及び会員制度だけでは不十分であることから、以下の事項について検討を行う。

(1)3種加盟団体制度の創設

(2)個人登録制度の創設、検討

### 2. 会員構成組織のあり方の再検討

ダンス開発本部と連携し、学連OBOGを継続的に会員として登録管理していくための仕組みの構築を検討するとともにPD本部と連携し、JDSF卒業生のターンプロ受け皿作りについても検討する。

### 3. JDSFの会員組織のあり方についての検討(会員組織検討WG)

JDSFの会員組織は、認定サークルを末端組織と位置づけているが、会員及びサークルの多様化により、現状の会員制度だけでは十分な対応ができない問題が考えられる。また、都道府県において入会希望の初心者を受け入れる何らかの組織が必要であるため、これらの検討を行う。

### 4. 風営法の改正と新たなダンス普及施策の検討

風営法の改正を前提とし、ダンススポーツ人口減少抑止策の一つとして、会員以外へのダンススポーツ普及が必要となっていることから、以下の事項について検討を行う。

1)ワールドスタイルダンス等の非競技系ダンスの普及施策

2)健康増進プログラムの開発と普及

3)(仮)ダンス検定制度創設に向けた研究開発

## 組織委員会

ブロックおよび加盟団体の運営ならびに組織化の支援を行うとともに、公益社団法人傘下

団体としての役割責任についての指導・支援を行う。

1. 加盟団体活動に対する関すること。
2. 加盟団体規程ならびにJDSF定款等に関すること。
3. ブロック機能と役割ならびに改善
4. 北海道ブロック運営委員会の運営管理
5. 組織統合に関する調整
6. 加盟団体の監査ならびに適正化

本年度は、ダンスを取り巻く環境が大きく変化するなかで新しい組織的な対応を図る。

1. 高齢化を迎えたサークル会員減少抑制と新たな会員組織・形態の創設
2. 風適法の廃止に伴うアマ・プロ組織の融合ならびに組織再編
3. 各種ダンス団体の連携ならびに新規参入の促進による会員拡大を図る

### 構造改革委員会

中長期の会員減少傾向に対応すべく、企画委員会、組織委員会、財務委員会、その他必要な部門と協力して、すべての組織とサービスを見直し、組織再構築を行う。

### ブロック運営委員会

#### 1. 北海道ブロック

部 門	月 日	内 容	場 所
競技部	4/5	2015 年前期北海道ダンススポーツ選手権大会	北海きたえーる
	5/31	審判員研修会(1 回目・本部講師派遣)	豊平区民センター(予定)
		北海道 DSC 第 15 回競技大会	同上
	8/30	グランプリ in 北海道 兼後期北海道ダンススポーツ選手権大会	北海きたえーる
	10/ 未定 3/ 未定	審判員研修会(2 回目) 競技資格講習会・テキスト研修会	未定 未定
指導部	5/24	公認指導員研修会	函館
	5/9・10	公認指導員(新規・B 級昇級)講習会	札幌
	6/14	公認指導員研修会	旭川
	8/23	公認指導員研修会	帯広
	8/29	公認指導員研修会	北海きたえーる
認定部	6/21	HG 技術認定会	豊平区民センター(予定)
	9/27	HG 技術認定会	未定
	11/ 未定	HG 技術認定会	未定
事務局	5/ 未定	ブロック運営委員会	未定
	6/ 未定	ブロック運営委員会	未定
	9/ 未定	ブロック運営委員会	未定
	12/ 未定	ブロック運営委員会	未定
	2/ 未定	ブロック運営委員会	未定

#### 2. 東北ブロック

- (1) 前期と後期の2回、ブロック選手権を輪番制で開催する。
- (2) ダンススポーツグランプリを仙台市で開催する。
- (3) エントリー減少に歯止めをかけるため若手アスリート発掘事業を実施する。

- (4)ブロック選手権戦においてジュニア戦を行う。
- (5)学生大会支援のため広告を掲出する。

### 3. 関東甲信越ブロック

- (1)関東甲信越ブロック運営委員会および拡大運営委員会を通じ、1都9県連盟の事業の運営円滑化を図る。
- (2)DSC 会員に関する選手登録・競技会エントリー手続き、会員管理、および情報提供等並びに都県連盟の DSC 活動支援を行う。
- (3)関東甲信越ブロック大会(選手権)を実施する。
- (4)ダンススポーツ普及活動を行う。

### 4. 中部ブロック

- (1)中部ブロック主催又は主管の競技会開催は次の通り
  - 1)4月5日 津島市文化会館 中部ブロック選手権 開催
  - 2)6月7日 名古屋市公会堂 全日本選手権 10 ダンス 開催
  - 3)7月26日 静岡グランシップ ダンススポーツグランプリin静岡
- (2)指導員講習会、研修会の開催
- (3)競技資格者研修会の開催

### 5. 西部ブロック

- (1)西部ブロック運営委員会  
年6回開催(奇数月)
  - 1)14府県の運営円滑化及びサポート、
  - 2)仮加盟(鳥取・高知)県の本加盟促進と援助
  - 3)ブロック内、競技日程調整
  - 4)各府県 活動報告 および 連絡と意見交換
  - 5)各プロ団体との意見交換会開催 (不定期)
- (2)西部ブロック主催(主管競技会)
  - 1)5月10日 グランプリ大阪 ブロック主管
  - 2)9月20日 西部ブロック戦 ブロック主催 大阪府 DSF 主管
- (3)指導員研修会・講習会年11回開催予定 (14府県)
  - 1)新規指導員講習会 随時(近畿地方、中四国地方で各1回の予定)
  - 2)B級指導員昇級講習会 随時(新規指導員講習と同時開催を検討)
- (4)競技資格者研修・講習会
  - 1)競技会支援システム運用資格者講習(新規・更新)実施 兵庫県 DSF(予定)
  - 2)公認競技長・採点管理長テキスト研修 実施 岡山県 DSF(予定)

### 6. 九州ブロック

- (1)グランプリ in 沖縄の主管
- (2)九州ブロック選手権 in 宮崎の主管

- (3) 運営委員会の開催 (4 回)
- (4) 公認指導員資格更新研修会の主管 (8 回)
- (5) 採点管理長資格講習会・更新研修会の主管
- (6) ブロック選抜選手派遣(三笠宮杯)

#### 会員拡大委員会

全国代表者会議・JDSF総会・関東甲信越ブロック競技会・全国都道府県対抗競技大会等の機会を活用し、各県会長・各県代表者・または正会員や競技選手から幅広く、各地方におけるダンス界の事情について情報を収集し、今後の活動指針とする。

#### 学校教育検討委員会

以下の事業を実施する。

1. 学校でダンス授業を行う時の教材の研究
2. 実地に学校でダンススポーツ指導を行う指導員への支援
3. 学校より要請があった時に対応出来る指導員の人材育成
4. 教材の提供

#### アンチ・ドーピング委員会

以下の事業を実施する。

1. ドーピング検査の実施
2. アンチ・ドーピング啓発教育
  - (1) 選手のアンチ・ドーピング啓発
  - (2) ジュニア選手の親、コーチへのアンチ・ドーピング啓発

#### 新審判基準委員会

新審判基準委員会は、ダンススポーツの審判の客観化のための活動を行っており、これまで国内全てのグランプリ競技会及び三笠宮杯で新審判方式を実施している。

また、近年では WDSF も日本発の絶対評価に倣い、独自開発した新審判方式を採用して多くの国際試合で採用している。絶対評価方式での客観性や公平性を高く評価している。平成 27 年度の重点実施事項は、以下の通りである。

1. 各グランプリ大会後に審判員 Review を行い、年に 1 度もしくは 2 度の審判員研修を行い、ばらつきの原因の究明や意見交換をし、客観化を向上させる。
2. 近年は、関東甲信越ブロックの選手権のように、グランプリ以外の一般競技会での簡易方式(新審判方式 B タイプ)の実施をすることにより普及を図る。
3. 従来の新審判方式で養ってきた高度の技術判定員制度を無くす事は人財の損失に繋が

る事になるのでこの制度を無くさず、ジュニア及びジュブナイル等の大会で課題フィガーを採用した新審判方式で審査を行い、ジュニア層選手の育成にも貢献したい。但し、これには問題も多く考えられるので多方面の組織と調整を図りたい。

## 環境委員会

JOCによる環境保全活動は、1972年に札幌で開催された第11回オリンピック冬季競技大会に、その端を発している。以来、JOCは、スポーツと地球環境保全の課題に真摯に取り組み、オリンピック大会組織委員会の環境保全活動においても指導的役割を果たされている。

当連盟においては、JOCのこうした活動に学び、2012年2月に環境委員会を設置し、スポーツと環境保全活動を開始したが、平成27年度もその活動を継続し、より発展させていく。

1. JDSF及び加盟団体主催の競技会での環境横断幕の掲出と環境保全の訴え
2. JDSF事務所会議室への環境ポスター掲示
3. 競技会等における環境保全活動
4. 事務所における環境保全活動
5. 「環境問題」がクローズアップされている地域など調査や活動方法の検討
6. 「環境問題」・「環境ポスター」等々の広報誌への掲載による環境保全活動の啓発
7. 指導員研修会等での「環境問題」をテーマとした講習の企画

## 倫理相談室

1. ダンススポーツ活動における子供のいじめ防止を中心とした倫理活動について、各都道府県連盟へ通知ならびに当連盟ホームページへの掲載などを行い、連盟内の啓発に努める。
2. 倫理規程の周知、徹底を図る。

## 事務局

### 1. 総務部

- (1) 各種業務規程等の整備
- (2) 就業規則に基づく人事関連運営の適正化
- (3) 加盟団体規約(都道府県連盟規約)適正化の推進
- (4) 会議等の適切な運営・議事録管理
- (5) 加盟団体に対する的確な情報伝達
- (6) 個人情報保護体制の見直し
- (7) JDSF 設立 40 周年記念事業の実施

### 2. 経理部

- (1) 公益社団法人としての適正な内部統制の実行

- (2) 経理規程等の整備
- (3) 予算管理及び経費支出の適正化
  - 1) 各部門責任者による予算執行状況の把握推進
  - 2) 各部門責任者の判断に基づく経費支出への統一
  - 3) 経理処理の適正化、明確化の推進
    - ① 会計単位(公益、収益、法人)区分経理の適正化
    - ② ブロック経理処理方法の統一
- (4) マイナンバー対応及び管理

### 3. 管理部

- (1) 会員、資格などの登録管理
- (2) 販売管理
- (3) 本連盟主催行事の事務局業務
- (4) 本連盟ホームページ、SNSなどの管理
- (5) DTC施設の維持管理、売上・費用管理

### 4. ダンススポーツトレーニングセンター(DTC)の運用

- (1) 現状の技術指導の定期的使用プログラム1回に追加し、新たなプログラム実施を図る。
- (2) 連盟内使用率のさらなる拡大を目指す。
- (3) 音響設備の老朽化に伴い、一部設備の修理・更新、メンテナンス簡易化のための設備整備を行う。
- (4) 日常の保守・管理部門である事務局と密接な連携を行う。

### 5. 法制部

- (1) 個人情報保護の規程の見直しと全国的な実施について検討する。

## JDSF主催競技会開催予定

H27・5・10	ダンススポーツグランプリ in 大阪(L)	大阪不死王閣
H27・6・7	全日本10ダンス選手権	名古屋市公会堂
H27・7・19	第10回オールジャパンジュニア・ダンススポーツカップ	藤沢市秩父宮記念体育館
H27・7・26	ダンススポーツグランプリ in 静岡(S)	静岡グランシップ
H27・8・30	ダンススポーツグランプリ in 北海道(L)	札幌市北海きたえーる
H27・9・13	ダンススポーツグランプリ in 仙台(S)	仙台市青葉体育館
H27・10・11	第35回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権	東京体育館
H27・11・8	第23回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会	和歌山ビッグウェーブ
H27・12・13	ダンススポーツグランプリ in 沖縄(S)	浦添市民体育館